

質実剛健・自主自立の伝統継承

式典・講演会・美術展……多彩な催し

90周年を厳粛・華やかに祝う

高 伊那北 高校 同窓会 報

発行
伊那北高等学校同窓会
TEL 0265(72)7312
FAX 0265(76)5585
<http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/>
印刷 (南)マスマタ印刷

伊那北高校は、大正9年(1920年)の旧制伊那中学校発足以来、昨年で創立90周年を迎えた。平成22年10月17日、記念式典、祝賀会が厳粛、華やかに行われ、質実剛健・自主自立の伝統のさらなる発展を誓った。これに前後して同窓会員名簿の発刊、会員の寄附等による研修棟「高志館」の建設、数学者藤原正彦氏の特別講演会、薫ヶ丘秀作美術展の開催、記念誌とパンフレットの発行など多彩な行事、催しが行われた。母校は次の大節目となる100周年に向けて始動する。以下各事業、催しについて報告する。

小林同窓会長が逝去



本校同窓会会長の小林弘一氏が1月15日、病気のため逝去された。83歳。葬儀は遺族の意向により家族の密葬で同19日に行われた。飯島町田切の出身で、旧制伊那中21回(4)卒で教育の道に入り、長野県教育委員会次長、伊那弥生ヶ丘高校長、松本深志高校長などを歴任。副会長を経て平成13年、小田切氏の後を継いで同窓会長に就任、5期10年を務めた。豪放活達人人柄で多くの人々に愛された。伊那北高校90周年の事業を強力に推進。この1年ばかり体調を崩したものの、病床から事業の成功を見届けての旅立ちだった。唐木近一副会長が既に会長代理を務めている。(関連記事4面)

文武両道 各界から注目

記念式典

10月17日午前、秋晴れに恵まれ、高校の体育館で挙行。周囲に紅白の幔幕が張り巡らされ、中央に現役の生徒約800人が座り、取り囲むように来賓約50人、学校職員約50人、実行委員会役員、PTA関係者、一般同窓会員ら計約1200人が参列した。まず職員、会員等の物故者への黙祷が行われた。体調がすぐれず欠席した小林同窓会長(実行委員長)の代理として唐木副会長が式辞を代読「薫ヶ丘で学んだ卒業生は2万9000余人に達し、文武両道、自主自立の校風を基に、質実剛健、堅忍不拔の精神、進取の気性などの伝統を育み、未来に向かって発展を続けている。完成なつた高志館の建設など各事業の達成は、同窓会員一人ひとりの永遠なる母校への矜持と愛校

心の結晶である」と力強く述べた。

続いて松山校長があいさつ「高い進学率やクラブ活動の活躍は文武両道の具現として各界の注目を集めている。節目の年に決意を新たにし、一層励んでほしい」と生徒に呼び掛けた。北林PTA会長も「地域の皆様の温かいまなざしに甘えることなく、有為な若者を育てるべく努力したい」と決意を表明した。県教育委員会・県高校長会代表、県議会議員代表、自治

